

平成24年4月(2012年)No.556

玉井 ^{ひとし} 勻さんが急逝

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

会長 合原 一夫

玉井氏の奥様からお電話をお受けしたのが3月25日、日曜日の朝でした。ご主人の勻さんが1週間前の3月19日の早朝に亡くなり昨日初七日をすませましたとの知らせだったのです。家族葬に近い形で故人の意思によりつつましやかに見送られた由。享年78歳。病名は突発性間質性肺炎という難病の一つだったようです。

玉井さんは日本アマチュア映像作家連盟の会員でもあり、この7月1日日本を縦断する映像発表会大阪会場で「近江八幡・左義長祭り考」を発表される予定で、そのプログラムが家に配達された日に帰らぬ人となってしまいました。棺の中にそのプログラムを納められたそうです。

今年のOMC撮影会のロケハンでも、玉井さんから何かとアドバイスを受けたということです。又、病室にパソコンを持ち込んでビデオ編集をやっていたということで、こんなに早く亡くなられようとは思いませんでした。なお、後日近江八幡方面へロケハンに行かれたとき井上、関、進藤、江村の各氏が帰りに玉井氏宅を訪ねてOMCを代表して仏様におまいりして来られました。ご苦労様でした。改めて故人のご冥福をお祈りいたします。

OMC撮影会無事終了

恒例のOMC一泊撮影会は、今年は井上世話役が中心となって企画を立てられ、4月7日～8日の土日に実施。まずまずのお天気にも恵まれて火祭りの様子などを存分に撮影を楽しみ2日目の懇親会で疲れを癒やしました。参加者は12名、作品コンテストは6月例会日の午後1時半からです。

4月例会のお知らせ

4月例会は第4土曜日28日午後6時より、いつものJR難波駅上4階難波市民学習センターにて開催します。もうすっかり暖かいよい気候になっている頃です。楽しいひとときをどうぞ、作品の方もどしどしお持ちください。

第52回OMC映像 フェスティバル 10月7日(日曜日)

OMC撮影会初日の日が、中央会館会場申込み日だったので、10月第1日曜日7日にホールを予約するために会場へ行ってまいりました。くじ運よく予約が取れましたので、この日を目標に発表会用作品に取り組んでください。昨年8月から今年7月までの作品の中から上映作品を選定します。

■天草 稔さん退会：このほどお電話があり健康上の理由で退会の由。お大事に。

■撮影会レポート 前田茂夫
4月7日(土)～8日(日)の二日間恒例のOMC春の撮影会を行いました。今回から井上会員の企画で滋賀県近江八幡市安土町の沙沙貴神社(ささきじんじゃ)の例大祭・大松明奉納神事をテーマに12名が参加して催されました。

沙沙貴神社は式内社で旧社格は県社。「佐佐木大明神」と総称され、佐佐木源氏の氏神であり、佐々木姓発祥の地だそうです。10月の近江源氏祭の祭礼日には全国各地から「佐々木」さんが集まってくると聞きました。7日は沙沙貴神社から北へ1Kmほどのところにある常楽寺会館で造られた直径2m長さ5mの大松明を牽いて沙沙貴神社へ向かい夜に点火されます。

道中では43歳以上の満寿(まんじゅ)と呼ばれる氏子達24名の中から4名が選ばれ、そのうち2名が手桶振(踊る役)となって手桶を担いで片足とびをしながら踊ります。1名は進行役となって拍子木を打ち鳴らしながら手桶振と綱先役の周囲を飛び跳ねながら数度廻って大松明の曳行を告げまわります。

行列を指揮する綱先役は、カイゼル髭を生やし、陣笠を被り、威厳を正した出で立ちで拍子木を打ち鳴らして祭列を指揮します。この4名が大松明を率いる先導役で凡そ1kmの道のりを5時間もかけて行進します。遅々とした歩みに私たちはイライラ

しますが、もっぱら我慢しての撮影です。夜の8時前にやっと沙沙貴神社に到着してからも、境内を一周してお披露目奉納の時間をかけて済ませやっと、松明を立てて点火したのが8時過ぎでした。

この頃は気温が低く、戻り寒波が来たような寒さに震える中、松明が勢い良く燃えだしてなんとか居心地がついたような具合で、夜の9時過ぎ頃まで撮影し、近江八幡のビジネスホテルに移動して一泊しました。火祭りそのものは、水利権のいさかいを治めるべく行われるようになったそうで、地域密着型の火祭りです。迫力に富むというほどでもなかったですが、大松明の輝く光景にそれなりに楽しめました。延々と続く道中のシーン、大松明の燃え盛るシーン、三基の神輿が境内や松明のところまで何度も往復するシーン、鐘を打ち鳴らす人と踊りながら太鼓を打つ人のシーン等々盛りだくさんのカットを皆様は撮っていると思います。8日は昼食をする料亭のマイクロバスで安土城址へ向かった会員、近江八幡掘や西の湖へ向かった会員など夫々自由行動を楽しみ午後1時から揃って懇親会を開催、3時にお開きになって帰宅の途につきました。

後はどのように纏めて料理するか6月23日例会日の午後に行われる公開審査日まで会員各位の腕の見せ所を発揮して頂き、いい作品を制作して下さるよう期待いたします。最優秀作品はOMC公開映写会で優先上映されます。

公開審査日：6月23日(土)午後1時半～

3月例会レポート

今年はまだ朝夕のめっきり冷え込む日が続いており桜の開花も遅れました。今月の司会は有村氏、書記、関氏、上映担当は江村、井上、河合の3氏、受付兼照明係は宮崎、宮井の両氏で進行了しました。

■上映作品(今月の講評は関世話役です)

これまで作品評として内容とともに善し悪しの是非を書いてきましたが、例会に出席されない方も約半数おられますので、内容を主として書くことにしました。ご了承

ください。

1、東日本大震災チャリティコンサート BD 10分 鉄具嘉夫さん

あの未曾有の大災害からまる一年が経ち、日本の各地でボランティアによる追悼行事が行なわれました。この作品もそのひとつで、作者がお住まいの地域活動のなかの合唱団演奏の模様を記録されています。ピアノと弦楽の数人を伴った、かなり大人数の混声アンサンブルですが、ステージのない床面がフラットな多目的ホールのためかホールの横幅いっぱいになり、撮影条件としてはたいへん難しい場所でした。当然パンニングが多くなりますが、しかし出演者を平等に撮るからには仕方ない事かもしれません。被災者を励ます寄せ書きのパネル作りも同時進行で撮ってありました。これをお一人（1カメ）で記録されたそうですから驚くとともに脱帽です。

2、中欧の旅 ブダペスト編

BD 10分54秒 蟹江利一さん

15年ほど前に筆者もここを訪れていますが、拝見したところあまり変わっていないようですね。街の真ん中を流れるドナウ川兩岸や王宮の丘などは世界文化遺産ですから変わらないのが当然なのでしょうが…。日本を立ったその日に着いてお疲れのはずなのに、その足で美しい夜景を撮っておられました。泊まった場所が王宮の丘の城壁内に建つヒルトンホテル。すぐ近くにマーチャーシュ教会や漁夫の砦などがある絶好のロケーションで、対岸の国会議事堂や（テロップは「ブダ王宮」になっていた）くさり橋の輝きがドナウ川の水面に映え、実に幻想的でした。翌日は市内観光をしながら50キロほど離れた国境の町エステルゴムへ。荘厳な大聖堂の内部を見学して外に出ると、結婚式を控えた花嫁とその家族たちの一団と遭遇。作者のカメラに愛想よく微笑んでくれましたが花嫁がなかなか現れずツアーの時間切れ。残念でしたね。

3、人気者！ミニSL

HD 8分27秒 前田茂夫さん

JR吹田工場で開催された見学会ですが、実物の5分の1のデゴイチで運転するミニSLの試乗が一番の人気。それも無料

とあって親子連れを中心に長蛇の列ができていました。結構長い線路が施設されていたようですが、少しでも多くの客を乗せるため50メートルほど進んではバックしてまた新しい客を乗せることを繰り返していたようです。石炭を燃やして蒸気の力で動かすのは本物とまったく同じ。折り返し点でぐるぐるとハンドルらしきものを回していましたが、多分蒸気弁を切り替えていたのでしょう。運転席の構造がどうなっているか興味をそそるところですが、惜しいかなその映像はありませんでした。

4、落城秘話 おあむ物語

HD 7分40秒 紙本 勝さん

大垣城は関ヶ原の合戦で石田三成が率いる西軍最後の砦。結果は西軍が敗れ城を明け渡すことになり、そこから徳川260余年の時代が始まります。「天下分け目の戦い」と言われるこの史実を知らない人はいないと思いますが、その陰で落城まえにこっそり城を抜け出した女性がいた、というのはあまり知られていません。三成の家臣で山田去暦の娘。この作品の主人公、当時16才の「おあむ」です。父の去暦がかつて家康の家庭教師？だったことから助けられ、太平の世になって以後、そのおあむの話から、敵に攻められ籠城中の阿鼻叫喚、さながら地獄絵図のなかで女子供たちはどのような状況だったのかが伝わり、それが書物になって世に出たというものです。どこからこのようなネタを仕入れられるのか作者の博識ぶりには舌を巻きますが、歴史の検証も確実になされていて頭が下がります。今回初めてナレーションをPCソフトの女声に換えられましたが、やや不自然なイントネーションなど、ちょっと聞き取り難いところもありました。

5、奥能登・冬の風物詩（前編）

HD 13分13秒 河合源七郎さん

冬、荒れる曾々木は能登の親不知といわれ、訪ねる人はほとんどいません。そんな波打ち際を菅笠に道中合羽、どこか股旅物の時代劇に出てきそうな姿の人たちが一列になって歩いていました。仏の教えに従って休業中の家族だそうです。正月休みも過ぎた一月中旬、輪島崎町では昔から伝わる

子供たちの行事が始まりました。面様年頭と言ひ、男面と女面をつけてペアを組んだ小学生が始終無言で氏子の家々を回って神棚の前に座り、主人から年賀の挨拶を受けます。見ず知らずの作者が面様について家の中に上がり込んで拒むことはありません。雪が舞う輪島の朝市。観光客向けの店はなく、わずかばかりの野菜や魚を並べて地元民どうしが触れ合う商い。これこそ本来の朝市の姿なのでしょう。冬の能登の自然は厳しいですが人々の心は明るく大らか。それが作者の主張です。納得しました。

6、マイタウン大阪

BD 6分57秒 有村 博さん

DVで撮った大阪の夜景を、4:3のままHDVフォーマットに載せて編集された作品つまり16:9に加工した映像上におなじ4:3の映像を重ね合わせたような印象です。DVDより画質の良いブルーレイ・ディスクにするためにわざわざ手のこんだ試みをされました。天保山からWTCのあるベイエリア、大阪ビジネスパーク、そして中ノ島から梅田やミナミと広範囲ですが、それぞれ趣の異なった光の芸術で飽きることはありません。普段なにげなく通り過ぎていたところも、このように角度を変えたアップ映像でみると、またあらたな新鮮味を感じますね。百万ドルの夜景が、なにも山の上だけではないことが判りました。

7、603最後の日

HD 6分15秒 江村一郎さん

603と言えば、列車が迫る線路上を歩く猫、なかなか閉まらないドアなど、かつての作者の作品で知らず知らずに笑ってしまう場面を思い浮べますが、紀州鉄道の名物車両も老朽化で2009年11月29日を最後に廃車になってしまいました。これはさよなら運行の日の模様です。発車した603のドアは相変わらず開いたままでした。西御坊駅にさよならの垂れ幕が飾ってあるわけでもなく、到着した603のヘッドマークは地元とタイアップした「商工祭」でした。普段はさびれた町もチンドン屋が練り歩く賑やかさ。踊りや演奏会が催され町はお祭り騒ぎ一色。今日でお別れ、の雰囲気

気はありません。鉄道自体がなくなるわけではないので地元民はさほど関心が無いのかも知れません。603に群がっているのはカメラを手にしたテッチャンだけ。最後に運転手に花束贈呈。「蛍の光」に見送られて発車した603はほぼ満席状態でした。

8、狐の嫁入り伝説

HD 5分 上田吉巳さん

京都・東山の花灯路期間中の毎夜行なわれる「狐の嫁入り」行列です。知恩院からねねの道を通って高台寺天満宮までの約700mを人力車に乗った花嫁を真ん中に80人あまりの列が拍子木を打ち鳴らしながら進みます。白無垢の花嫁は狐の面を着けて人間の顔を見せることはありません。羽織袴の男たちも狐の面を背負い「日本むかし話」さながらにメルヘンの世界を漂わせていました。昔話にも諸説がありますが、「京都の鳥辺山あたりは無縁仏の墓が多く、夜になると狐火が列をなし、それが狐の嫁入りと言われ、見てはいけないものになっていた。もうひとつは、干ばつに喘いでいた村人が雨ごいのため狐を生け贄にして雨を降らそうと、狐の娘を騙して嫁入りさせて殺してしまった。そのとき雲ひとつ無い空から大粒の狐の涙雨が降ってきた」という意味のお話が行列の映像の下に延々とテロップで出ます。字を読んでいるあいだは画面に集中できません。市原悦子なみにはいかないまでも、せめて女声のナレーションだったら雰囲気も変わっていたらうに、と思いました。

9、思い出のサンフランシスコ

BD 3分 井上勝彦さん

トニー・ベネットの歌をバックに、グーグルアースの立体画像をサンフランシスコ市街地上空500mほどにセットしてゆっくり移動。まるでヘリコプターから撮影したように見えます。この2月に市役所ロビーで催された都市美展での3D「中ノ島フライスルー」も訪れた観客から高い評価を得ておられました。最近場所は説明する地図代わりにグーグルアースがよく使われますが、空中からの模擬飛行的な映像にされているのは今のところ井上さんだけでし

よう。窓を言えば、ただ一定高度を一定速度で移動するだけではなく、ビルの谷間を飛んだり、ゴールデンゲートブリッジの下をくぐり抜けたりすると面白い映像になると思いますが。グーグルアースの設定も複雑なんでしょうね。

10、西宮十日えびす

BD 16分 吉岡貞夫さん

おなじみ西宮神社の行事ですが、今回は十日えびすの縁起物「箕」に飾る恵比寿や大黒の面が作られる現場を取材されていました。宝塚市街から北へ向かった奥地にある面工房。すでに素焼きしたえびす面がずらっと並べられ、それに眉や髭などの絵付けを施す仕事場です。元来「箕」は穀物の選別や物を運ぶときに使う道具ですが、インタビューによると明治の頃に恵比寿と大黒の面をつけると福をすくい取る縁起物として大量に売れるようになり、今は熊手とか副笹につける飾り物など、あらゆる縁起物がこの工房でつくられているそうです。一方、西宮神社境内の一角にある「おかめ茶屋」でも十日えびすに向けて縁起物の組み立てや取り付けの準備が進んでいました。そしていよいよえべっさん当日。神社には大勢の人々が参詣に訪れます。ところで奉納されたあの270kgもある大まぐろ。三ケ日が済んだらどうなるのか、行方が大変気になるところです。できればいちど取材してもらえないでしょうか。

11、越前水紀行

HD 9分45秒 森口吉正さん

越前市五箇地区は古くから和紙の産地として有名です。大滝神社には和紙にまつわる伝説があり、神のお告げによる製法は強くて丈夫で、さまざまな工芸品に使われています。作業場では昔から伝わる紙漉き歌を唄いながら作業が進められていました。また、ここは佐々木小次郎の故郷でもあり、不動滝の下で剣の修業をしたと言う跡が残っています。ここから武生の市街地を抜け更に西へ、日本海に出る峠の手前を登ったところに解雷ヶ清水（げらがしょうず）という湧き水があります。約1400年前、戦火を逃れ、越前の米ノ浦に流れついた百済の王女「自在姫」が水を求めてさまよい

歩くうち、落雷の轟音とともに岩が割れ、そこから清らかな水が湧きだした。と言う伝説があり、真夏でもたいへん冷たく、かつては付近の海女たちが魚の保存に利用していたといえます。作者もこの水を飲んで実感されたのでしょうか。ラストは米ノ浦の夕日でした。毎度感心するのは、作者の作品は完成度が高く、いつも安心して拝見できることです。

12、秋・勝尾寺

BD 5分30秒 西村光雄さん

すこし霧がただよう境内は紅葉真っ盛り。西国二十三番の札所です。山門の額を境内側から見ると勝王寺と書かれています。これは平安前期、当山仏法の祈願力には時の朝廷の権力もおよばなかったことから王に勝つ寺「勝王寺」と清和天皇から称号を授かったそうです。またこの寺はだるま寺ともよばれ、境内の至る所にだるまが置かれています。勝ち運を呼ぶとして勝負師、スポーツ選手、受験生、芸人、選挙の立候補者たちがだるまの裏に願い事を書いて片目を入れ、成就すればもう一方の目も入れて奉納しています。無数に置かれただるまはみんな両目が入っていましたから、それだけ多くの人たちの願い事が叶ったのでしょうか。中年の婦人がだるまを奉納する姿を撮っています。その場所には難関校への合格祈願や3年4組全員合格と書かれたのもありました。鐘のひと突きで終わりますが、丁寧な絵作りと判りやすいナレーション。作者のお人柄を表しています。

13、ドロミテ東部

HD 8分 華岡 汪さん

イタリア北東部ヨーロッパアルプスの東側に位置し3000m級の山々が連なります。まずコルティナダンペッツオの町に到着。ここを起点に周囲の山へアタックします。最初はドロミテの代表格トレ・チーメへ。途中片道1時間のハイキングをしましたが出発点はクロッチ峠からだったので。道の両側にさまざまな高山植物が可憐な花を咲かせていました。峠を下るとミズリーナ湖のすばらしい景色がひろがります。湖畔からロープウェイで2147mのコル・デ・ヴァルダへ。クリスタッロの

南東斜面が一望できるはずですが、雲がかかって残念。そそくさと下山すると湖越しにトレ・チーメが見えましたがやっぱり頂上は雲のなかです。いちど町へ戻って今度はトファナーナ山へ。ロープウェイを3回乗り継いで山上に着きましたが雨模様。濃霧で頂上への道は通行止め。付いてませんね。仕方がないのでバールでコーヒーを一杯。そして再びロープウェイを乗り継いで下山しました。アルプス観光はお天気次第です。しかしコルティナダンペッツオは美しい町。すばらしい経験をされたと思います。

14、クトナー・ホラ

HD 7分20秒 山本正夢さん

チェコのほぼ中央に位置する銀鉱山で栄えた小さな町。聖バルバラ大聖堂に通じる道の東側にはプラハのカレル橋に見るような聖人像がたくさん並んでいました。繊細な彫刻を施した塔を多くそなえた後期ゴシック様式。聖バルバラ大聖堂は世界遺産です。そしてもうひとつの世界遺産が聖母マリア教会。簡素ななかにも荘厳なたたずまいを見せています。その厳かな雰囲気に入っていると突如暗転。雷鳴が轟いたあとの画面は髑髏の山。そこはセドレツ納骨堂。骸骨教会とも呼ばれる教会内部は、装飾はもちろん、十字架やシャンデリアも人骨。何とも気味悪くおそろしい光景です。人骨の数はおよそ4万人分。その多くは14世紀頃のヨーロッパで大流行したペスト、あるいはフス戦争で亡くなった人たちですが、ここによく似た場所がヨーロッパ各地にあるのを見ると、人間の死や亡骸についての考え方が我々日本人と随分違うようです。まさにホラーの世界ですね。

15、晩秋の散策

HD 6分10秒 渡辺雄史さん

まず紅葉真っ盛りの勝尾寺。池から霧がわいています。西村さんの作品にも池から霧が立ちのぼっているように見えたのですが、ひょっとして温泉が…？。次は箕面の滝。平日だったのかあまり混んでなくて滝を良い角度から撮られていました。一足飛びで西へ。今度は須磨離宮です。まず西側の日本庭園。石灯籠の丸窓越しのもみじが鮮やかに映えていました。次いで明石海峡

大橋が目まえに迫る舞子公園。定番の夢レンズを通した主塔もバッチリでした。そこから上にあがって海上約50mの橋桁の中を空中散歩。丸木橋の左右は下がまる見えて思わず足がすくみます。そして夕景。橋の彼方に太陽がゆっくり沈んでゆきます。こう言う構成も面白いですね。ちょっと範囲が広いですが。

16、街のファンタジー

HD 3分14秒 宮井 健さん

大阪の街の夜景をクロススクリーンや何枚かのフィルターを使い分けて撮影しておられます。先出のマイタウン大阪とは違った効果が出て印象は異なりますね。作者がフィルターを買い、これを装着して撮ったらどんな効果が出るか。つまり試し撮りをされた、と私は思います。このように光条フィルターを付けるとつい回してみたいくなるものですが、逆効果でした。それに直接鏡胴に手を触れますので映像がガタガタ揺れます。作者はいろいろ新しい撮影方法を試されますが、これもまた楽しいですね。

17、おたいまつ 炎の舞

HD 5分10秒 高瀬辰雄さん

東大寺二月堂のお水とり、つまり修二会クライマックスです。回廊のすぐ横から、階段を登ってくる松明を間近で撮っておられ迫力満点です。私も経験しましたが場所の確保が大変だったでしょう。下からの映像。炎が歩く、突き出す、まわす、走る、走りながら回す、火の粉を撒き散らす。息もつかせぬほど次々に松明が走り炎が舞います。そして最後は多数の松明がいっせいに夜空を焦がします。ここは合成ですがじつにうまく処理されていて感心しました。慾を言えば、おなじ松明の映像を左右にずらしたところがありましたが、まったく動きが同じなのでやや不自然さがあります。ですからこれに3~5秒程度の時間差をつければもっと良くなったはずですが、それと観衆の歓声が大部分消されていました。とくに大きく火の粉を散らす映像に観衆の声がありません。これは効果音として大事だと思いますのでぜひ復活させてください。

安土・沙沙貴神社火祭

①沙沙貴神社火祭概要

・沙沙貴神社は滋賀県近江八幡市安土町にある神社である。式内社で、旧社格は県社。少彦名命を主祭神として計四座五柱の神々を祀り、「佐佐木大明神」と総称する。佐佐木源氏の氏神であり、佐々木姓発祥地に鎮座する。敷地 7000 坪。本殿、透塀、中門、権殿、拝殿、楼門、東廻廊、西廻廊の 8 棟は平安・鎌倉時代の様式で江戸時代に建立。磐境 - 少彦名命・沙沙貴山君を祀る、呑月の庭 - 勝元宗益築庭、千丈の庭 - 中嶋登茂美作、さざれ石の庭 - 天然記念物いずれも滋賀県指定有形文化財。(Wiki 抜粋)

・沙沙貴神社の沙沙貴まつりは、大松明奉納神事・神輿三社神事そして沙沙貴十二座神事からなる。この行事は常楽寺・上出・中屋・慈恩寺・小中の地区の氏子を中心となって常楽寺から約1km離れた神社まで、大松明を引いて奉納に行く。大松明は櫛状の木枠に乗せられており、踊子が手桶踊りを踊りながら 4 時間もかけて移動していく。この大松明は、満壽(まんじゅう)という 43 歳以上で駕輿丁を勤め上げた人が 24 人で、3 月の日曜日毎に常楽寺で作業し、直径 2m、長さ 5m の大松明を作るのである。本年満壽に加わった人の中から 4 名選出し、二名が手桶踊り、一人が綱先役、もう一人が進行役になる。曳くのは、駕輿丁の若衆である。役は年齢階梯制で、厳密である。私は手桶踊りの手桶の上に乗った注連縄に驚いた。その形は、湖北のオコナイ、特に延勝寺のオコナイのエビに類似していたのだ。この沙沙貴神社の手桶の上の龍神は、水神であろう。水を汲む手桶であるから、水神は当然だが(汗)。手桶は、松明の炎が燃えすぎないように水を掛ける目的だそうである。それは、火伏の意味もあろう。だが、これら郷の祭は水利権の社会的結合が背景にあったようなので、雨乞いなどの祈願も込められていると私的には想像している。火と水=神(かみ=火水)を象徴的に表した祭といえよう。大松明が手踊りを繰り返しながら進む光景は華麗であるし、火祭で大松明や手振り松明の燃える中を神輿が巡行するさまは、勇壮である。すばらしい大松明奉納神事であった。(近江の祭・火祭から抜粋)

・2012 年の火祭開催は 4/7(土)午後 3 時~8 時。

②他の撮影対象候補

- ・信長コース(安土城跡、安土城考古博物館、安土城城郭資料館、セナリオ跡・・・)
- ・西の湖、水郷めぐりコース
- ・万葉コース(桑寶寺、観音正寺、教林坊、石寺楽市、岩戸山十三仏・・・)

③撮影会概略スケジュール(詳細は後日ご案内します)

- 4/7(土)AM JR 大阪駅集合ー安土駅着、近辺撮影(昼食は各自適宜、ホテルに荷物預かり可)
PM 沙沙貴神社火祭撮影ーベストイン近江八幡(近江八幡駅前)宿泊(夕食は各自適宜)
- 4/8(日)AM 安土、近江八幡近辺撮影
昼食(懇親会を兼ねて、安土駅前・料亭ふな幸にて、少しだけ豪華に)
PM 自由行動

④交通:

- ・沙沙貴神社は JR 琵琶湖線「安土駅」下車 徒歩 15 分、大阪から新快速で 1 時間 21 分(平日 1450 円、土日につき、昼特適用あり)、名神竜王 IC から車で 15 分。
- ・宿泊ホテル(ベストイン近江八幡)は安土駅から一駅大阪寄り(乗車時間 3 分)の近江八幡駅前。

⑤費用見込み:

- ・撮影会参加費用(宿泊、懇親会ほか):15,000 円(交通費および 4/8 朝食、懇親会以外の食事代は別途、自己負担)

以上